

◆生育状況について

1. JA管内 ふじ生育

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	3/28	4/9	4/23	4/26	5/1
令和8年					
令和7年	3/26	4/9	4/22	4/25	5/1
令和6年	4/1	4/10	4/20	4/24	4/28

◆当面する重点作業について

- 腐らん病対策を徹底する。また、うどんこ病の被害枝除去を行う。
- メンチュウ(リンゴワタムシ)対策として、主枝・亜主枝等の太枝の背面にある徒長枝の切り株を、ノコギリできれい切り取る。
- 整枝せん定後の切り口に、必ず塗布剤を使用し、保護する。
- 高密度植(新わい化)栽培では、整枝せん定を行う。

◆第2回薬剤散布について

- 散布時期：展葉始め(発芽10日後頃)

実際散布月日 月 日

- 使用薬剤(混用順記載)※調合量1000l当り・10a当り散布量：3500以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
コロナフロアブル	400倍	250ml	—	うどんこ病
アントラコール顆粒水和剤	500倍	200g	45日	黒星病

3. 散布上の留意事項

- 黒星病は、ここから落花後までが重要防除時期になる。以後の感染拡大につながるため注意する。
- 殺菌剤効果を高めるため、展着剤に代えて、機能性展着剤ドライバー2,000倍(水100l当り50ml)を使用してもよい。
- コロナフロアブルに代えて、イオウフロアブル500倍(水100l当り200ml)を使用してもよい。
- アントラコール顆粒水和剤に代えて、ベルコート水和剤1,000倍(水100l当り100g)を使用してもよい。



◆特別薬剤散布について

1. 散布時期：第2回から第3回の散布間隔が10日以上空くと予想される場合は、
第2回散布から7日後頃に特別散布する。

実際散布月日	月	日
--------	---	---

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：3500以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
アントラコール顆粒水和剤	500倍	200g	45日	黒星病

3. 散布上の留意事項

- 1) 昨年、黒星病の発生が見えた園、降雨が多い場合は、必ず実施する。
- 2) 殺菌剤効果を高めるため、展着剤に代えて、機能性展着剤ドライバー2,000倍（水100ℓ当り50ml）を使用してもよい。

◆腐らん病対策について（重要）

腐らん病の発生が目立っています。地域的に蔓延すると大きな被害になることが予想される。一丸となって対策を徹底し、腐らん病の増加を防ぐ。

1. 腐らん病とは

カビ（糸状菌）による病気です。特徴は以下の2つ。

- 1) 主な感染部位は傷口

自然条件で起きる凍害や風による枝折れのほか、管理作業で発生する摘果や収穫時の果台痕、せん定痕など。

- 2) 伝搬を担う胞子は一年中飛散

傷ができるせん定後、摘果後、収穫後が主な感染時期＝「重点的な対策が必要な時期」



主幹部の被害の様子

2. 対策：伝染源の除去

1) 枝腐らんのせん除

枝腐らんは見つけ次第せん除！！。

展葉～開花頃から見つけやすくなる。摘果時にハサミやノコギリを持たない場合は、ビニールひもを持って、印をつける。

病原菌は、枝の表面より内部に広く存在する。健全な枝や葉そうを複数含めて長めにせん除する。

2) 胴腐らんの処置

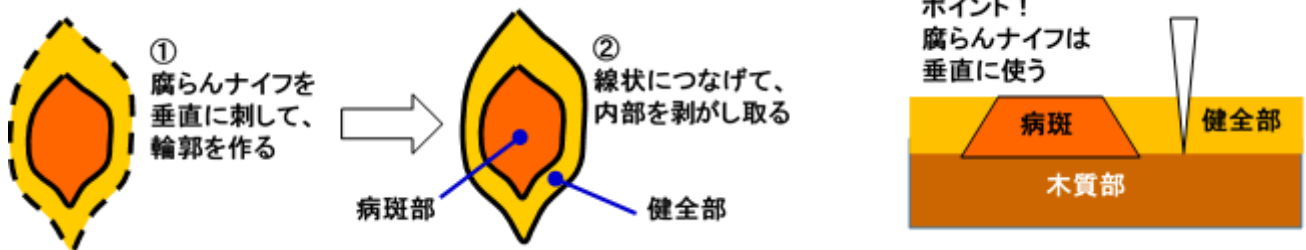
病斑が主幹外周の半分以上に進展している場合は伐採を検討する。

①削り取る病斑の下にシートを敷き、削り取った病斑を回収できるようにする。

②病斑の周辺を軽く削り、病斑の大きさを確認する（この部分に病原菌が存在）。病斑は表面よりも内部の方が広い範囲に及んでいる。

③削り取りは専用の腐らんナイフ（腐らん削り）がおすすめ。

- ・削り取る輪郭に破線状に腐らんナイフを垂直に挿し、紡錘形に印をつける。
- ・しるしを線状につなげると、内側の病斑部を剥がし取ることがきる。



4. ポイント：伝染源除去にあたって

1) 園内の点検

樹体に傷を作る摘果作業の前には、園内の点検を行う。

展葉～開花期は腐らん病が目立ち始める時期です。展葉～開花期、摘果前は一斉点検を実施する。地域で行うと効果的です。

2) せん除した枝、削り取った罹病部の処置【重要】絶対に園内に放置しない。雨にあたるなど、水分があると孢子を形成して飛散させるため、焼却するか土中に埋める。

なお、法に基づき、やむを得ず焼却を行う場合は、苦情が出ないように周辺環境に十分配慮する。すぐに処分できない場合は、シートをかけて雨が当たらないようにする。

5. ポイント：せん定の順番

休眠期は樹体の防御機能が働かないため無防備です。近年、降雪量が少ない、経営規模の拡大等の理由から、せん定時期が早まっていますが、無防備な期間が長くなり、感染リスクが高まります。また、早いせん定は傷（せん定痕）ができてから春の薬剤散布までの期間が長くなるので、感染リスクが高まります。せん定には次の点に留意する。

1) 他の樹種（もも、ぶどう、なし）がある場合は、りんごのせん定を最後にする。

2) りんご園の中でも、腐らん病の発生がみられる園、多い園のせん定は最後にする。

腐らん病に特效薬はありません。地域一丸となった「伝染源の除去」が重要です。
潜伏期間が長いため、対策の効果を実感できるのは2～3年後です。
地域のりんごを守るため、根気強い「腐らん病対策」を実施する。

(引用：長野農業農村支援センター～りんご生産者の皆様へ～)

これ以上被害を増やさないために、有効な防除対策の一つである「樹皮の削り取り」動画が作成されています。この動画を参考にいただき、りんご腐らん病の発生軽減・撲滅を目指しましょう。
長野県の方針により、YouTubeチャンネルのアップ先が変更になりました。
長野県で検索いただくか、下記QRコードにて。

